

平成31年3月28日

平成31年第一回定例会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 吉原 修

平成31年第一回定例会は、都議会史上前例のない暴挙が強行されたまま、本日終了しました。もはや首都の議会制民主主義は、死んだと言っても過言ではありません。

そもそも、都議会は70有余年の歴史の中で、先人達が築き上げてきた知恵と努力の積み重ねによる信義・誠実の原則があります。それは「理事会」の権能と役割であります。議会運営委員会、常任委員会、予算特別委員会等にはそれぞれ「理事会」が設置されており、議員から動議や議案等が提出された場合は、速やかに理事会を開催し、党派を超えた協議を行い、各党派間の意見を調整した上で、円滑な議会運営に努めるべきルールがあります。

しかしながら、今定例会では、与党2党派が知事の公約違反を付度し、理事会協議の原則をことごとく踏みにじり、自民党、共産党の理事が出席していない中で理事会を強引に開催するとともに、各党から提出された動議や抗議を委員会の場でことごとく蹂躪するなど、数の力で押し切り、都議会を混乱に陥れました。このような蛮行は、二元代表制に対する背信行為であります。

このため、我が党は、都議会6党派の共同により、尾崎議長、増子議運委員長、石川予特委員長宛てに「都議会の正常な運営の確保等について」緊急要望を行い、議会の正常化を求めましたが、議会運営が正常化することはなく、前代未聞の強権的な議事運営が続き、都議会の歴史に大きな禍根を残すことになりました。我が党は、今後も都民の付託を請けた議会人として、尊重すべき信義を守るよう強く訴え、都議会正常化に全力で取り組んでまいります。

小池知事就任から3年目を迎えましたが、これまで、知事が鳴り物入りで導入した事業は惨憺たる結果に終わっています。

ベビーシッター利用支援事業、トウキョウ・トウキョウ・フェスティバル事業、LED電球交換事業など、思いつきやパフォーマンスで立ち上げ、極めて低い執行率に終わった実態も明らかとなりました。

このように、知事が事業化した施策は常に場当たりので、失政の反省が全く活かされていません。新しいことを矢継ぎ早に発表することで、知事の失策から都民の注意を逸らしているだけです。知事は、このような姿勢を改め、堅実な都政運営に、腰をすえて取り組むべきことを改めて提言したところです。

平成31年度一般会計予算について、申し述べます。

31年度予算が抱える大きな問題は築地市場跡地に係る関係予算です。知事の突然の方針変更に関して、説明責任を全く果たすことなく、方針は変わっていないと強弁を続ける知事の姿勢を付度した、まさに、辻褄合わせの予算です。

そもそも、知事提案の築地まちづくり方針（素案）の基本スキームは、都が土地を所有したまま民間企業に貸しつけ、50年間にわたって賃料を回収するというものです。しかし、肝心の再開発計画は曖昧であり、漠然とした概念図があるだけです。

都民に5千億円以上の借金を負わせ、その返済を支える開発計画はこれから考えるというのでは、あまりに無責任です。これが、本当に都民のためになるのか、東京の将来の発展にとって正しい選択なのか、知事と議会の間で十分な検証も議論もなされてはいません。

また、知事が一旦購入を中止した「旧こどもの城」跡地を結局購入するということについても、当初370億円で取得できたはずの用地が、この間の地価上昇により600億円にまで膨らむことで、都民に230億円の負担を強いることになりました。これは、紛れもなく知事の2年間の怠慢であり失策です。

もちろん、31年度予算は、ラグビーワールドカップの成功、2020年東京大会に向けた準備の総仕上げ、昨年相次いだ自然災害を教訓とした防災対策など、都政が直面する行政課題に的確に対応することで、2020年大会後の東京の発展に向けた基礎を作る大事な予算です。

オリンピック招致に全力で取り組んだ都議会自民党は、大会成功に向けた重い責任感と熱い思いを強く抱いています。しかし、5千億円をこえる借金を都民に課して、中身のないまちづくり計画に基づいた経費を強引に予算化することは到底容認できません。

そして、この課題について、集中的かつ専門的に審議し、都政への信頼を回復し、東京における市場のあり方全体の議論を深め、都心の一等地である築地跡地を東京の将来の発展に繋げていくため「市場・築地市場跡地問題等特別委員会」を設置することを提案しました。しかし、小池与党の反対にあい、否決されてしまいました。今後の築地まちづくりに対する都議会のチェック機能が十分に機能するのか、大いに危惧しているところです。

このような状況を総合的に勘案し、築地まちづくり予算に関する大きな矛盾と問題点を放置したままの第一号議案平成三十一年度東京都一般会計予算には反対し、その他の知事提出議案には賛成いたしました。

最後に、我が党は、都の予算編成の原則及び二元代表制の根幹を、これ以上崩壊させるわけにはいきません。これからも、都政と都議会の正常化を図り、都民のための都政実現に尽力し、東京の未来責任を果たしていくことをお誓い申し上げます。